

刊行にあたって

本書は、「銀行業務検定試験・財務２級」に合格することを目的として編集された受験参考書です。

ご承知のように、銀行業務検定試験・財務２級は記述式の試験ですので、解答にあたっては、いかにわかりやすく簡潔に文章をまとめるかが問われます。そのためには、十分な財務知識を必要とすることはもちろんですが、過去の出題傾向に即した練習問題を実際に何度も解き、書いてみるのが大切です。その際、出題の意図・ポイントを的確に把握したうえで文章をまとめる、そうした点を大いに配慮して本書は編集されています。

金融機関の行職員にとって財務知識は日々の業務を遂行するうえで必要不可欠なものです。とくに企業をみる場合、信用調査とともに財務内容を検討・判定するための十分な眼を養うことが必要です。そのためには、十分な財務知識を日頃より身に付け研鑽する姿勢こそが大切です。そして、その習得度合いをはかるためにも銀行業務検定試験にチャレンジしてください。

過去の問題については、「財務２級問題解説集」（銀行業務検定協会編）に収録してありますので、本書とあわせて有効に活用し、銀行業務検定試験・財務２級に合格され、よりいっそう日常業務に邁進されることを祈念して止みません。

2018年２月

経済法令研究会

※本書は、従来の「受験対策シリーズ」から「公式テキスト」に名称変更したものです。

目 次

- 1 本書の利用方法
- 2 記述式答案の書き方
- 3 答案の具体例
- ◆ I F R S の概要（日本の会計基準の理解のために）
- ◆ 銀行業務検定試験「財務 2 級」出題範囲
- ◆ 出題項目別一覧（過去 5 回分）

財 務 諸 表

1 財務諸表のしくみ	4
2 貸借対照表・損益計算書の様式・区分	13
3 流動資産の分類・内容	21
4 固定資産・繰延資産の分類・内容	27
5 負債の分類・内容	34
6 純資産の分類・内容(1)	43
7 純資産の分類・内容(2)	56
8 有価証券の評価	61
9 棚卸資産の評価	76
10 固定資産の評価	83
11 固定資産の減損会計	98
12 損益計算書の分類・内容	105
13 製造原価報告書	110
14 損益計算の原則(1)	118

15	損益計算の原則(2)	125
16	会計原則と利益操作	133
17	引当金	139
18	連結財務諸表	152
19	税効果会計	166

財務分析

1	財務分析一般	178
2	収益性分析	186
3	損益分岐点分析	192
4	生産性分析	199
5	売上・利益増減分析	205
6	安全性分析	213
7	資金運用表(1)	224
8	資金運用表(2)	233
9	資金移動表	240
10	資金繰表	248
11	一般運転資金	256
12	特殊運転資金・設備資金	263
13	キャッシュ・フロー計算書	271

● 凡 例 ●

本文中の法令の略語は、次のとおりです。

- ・財規……………財務諸表等の用語、様式及び作成
方法に関する規則
- ・原則……………企業会計原則

財務諸表

本編のガイド

重要項目の要点整理—ここがポイント！

財務諸表とは……

財務諸表（会社法上は「計算書類」という）とは、決算において企業が一定時点または一定期間の財務状況を報告するために作成する計算書類を総称したものであり、一般に決算書とも呼ばれています。資料を使って財務諸表を作成する練習をしておきましょう。

- 貸借対照表（B/S）
- 損益計算書（P/L）
- 株主資本等変動計算書
- 個別注記表

（注） 金融商品取引法（旧証券取引法）ではキャッシュ・フロー計算書も基本財務諸表として扱われます。

貸借対照表とは……

貸借対照表は、企業の財政状態を明らかにするために、貸借対照表日におけるすべての資産、負債および純資産を記載し、利害関係者にこれを正しく表示するものです。自身で作成できるよう記載区分、内容、配列、評価方法について確実に覚えておきましょう。

損益計算書とは……

損益計算書は、企業の経営成績を明らかにするために、一会計期間に属するすべての収益と費用を記載して経常利益を表示し、これに特別損益に属する項目を加減して当期純利益を表示するものです。自身で作成できるよう様式、記載区分、内容、損益計算のあり方について確実に覚えておきましょう。

連結財務諸表とは……

連結財務諸表（会社法上は「連結計算書類」という）は、基本的には連結グループ内のそれぞれの会社の個別財務諸表の各勘定科目の金額を合算および消去することによって作られるものです。連結財務諸表の内容を理解するためには、どのような仕組みのもとにいかなる手続を踏んで作られるのかということをおさえ、自身で作成できるようにしておきましょう。

- 連結貸借対照表（連結B/S）
- 連結損益計算書（連結P/L）
- 連結株主資本等変動計算書（連結S/S）
- 連結注記表

（注） 金融商品取引法（旧証券取引法）では、連結キャッシュ・フロー計算書も基本財務諸表として取り扱われます。

財務諸表のしくみ

基本問題

A社（小売業）の当期末の試算表
ならびに決算整理事項は、別記のと
おりである。これについて、次の設
問に答えなさい。

- (1) 計算過程を示して当期の純利
益を算出しなさい。
- (2) 当期末の純資産の額はいくら
となるか、内訳明細を示して
答えなさい。

決算整理事項

- | | |
|----------------|---------|
| ① 期末商品棚卸高 | 4,312万円 |
| ② 固定資産の減価償却費 | 300万円 |
| ③ 賞与引当金の計上(繰入) | 270万円 |

決算整理前残高試算表

A社 (単位：万円)

借 方	勘定科目	貸 方
2,175	現 金 預 金	
3,825	商 品	
4,237	固 定 資 産	
	買 掛 金	2,287
	借 入 金	5,062
	資 本 金	1,200
	利益準備金	200
	別途積立金	685
	繰越利益剰余金	90
	売 上	22,500
16,500	仕 入	
5,137	販 管 費	
	受 取 利 息	112
262	支 払 利 息	
32,136		32,136

本問のポイント

- ① 決算整理事項にもとづいて、整理仕訳を行う。
- ② 整理仕訳を、当期末の決算整理前の残高試算表に追加計上する。
- ③ ①②を行った後の残高試算表から、損益項目を計上して、当期純利益を算出する。
- ④ 資本勘定を集計して純資産の額を算出する。この場合、③で算出した当期純利益を前期から繰越した繰越利益剰余金（前期繰越利益）に加算して、期末の繰越利益剰余金残高を算出する。

解答欄 (自己作成欄)

財務諸表

〈執筆協力〉

戸倉裕治（公認会計士，税理士）

☆ 本書の内容等に関する訂正等の情報 ☆

本書の内容等につき発行後に訂正等（誤記の修正等）の必要が生じた場合には、当社ホームページ（<https://www.khk.co.jp/>）に掲載いたします。

（ホームページ [書籍・定期刊行誌TOP](#) の下部の [追補・正誤表](#)）

銀行業務検定試験 公式テキスト 財務2級 2018年6月・10月受験用

2018年3月30日 第1刷発行 編者 (株)経済法令研究会
発行者 金子幸司
発行所 (株)経済法令研究会
〒162-8421 東京都新宿区市谷本村町3-21
電話 代表03-3267-4811 制作03-3267-4897

営業所／東京03(3267)4812 大阪06(6261)2911 名古屋052(332)3511 福岡092(411)0805

制作／経法ビジネス出版・太田修平 恒吉栄吉 印刷／日本ハイコム(株)

©Keizai-hourei Kenkyukai 2018

ISBN978-4-7668-4343-9

経済法令研究会のホームページ
<https://www.khk.co.jp/>

定価は表紙に表示してあります。無断複製・転用等を禁じます。落丁・乱丁本はお取換えします。